

授業形態 一人一人が達成感をもつ習熟度別授業を展開する

中学校2年生の数学の授業でのHさんとI教諭の会話。

Hさん：「数学って得意ではないけど、集中して計算などに組み
むと結構やる気が起きる感じなんです。」

I教諭：「なぜ、そう思うの？」

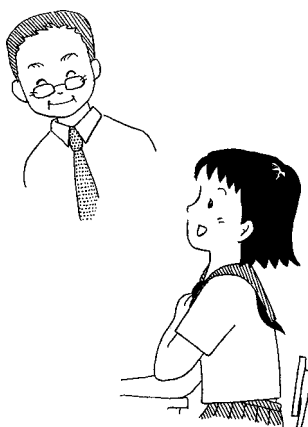
Hさん：「1年生の時は、クラス一斉授業で進み方が早くて、分
らなくなってなかなかついていけず、やる気がなくなった
ことがあったんです。今年になって習熟度別の少人数授業
になって、進み方が自分にあっていて、先生も順番に回っ
てきてくれるから質問しやすいんです。このままの授業が
続くといいと思うんですが。」

I教諭：「というと…。」

Hさん：「今回の期末考査で点数が上がっちゃって、着実コースよ
り人数の多いクラスを勧められたんですけど、移らなけれ
ばいけないでしょうか。」

I教諭：「そんなことはないだよ。
自分にとって今どんな学習が
必要かよく考えて、自分の気
持ちを第一にすればいいんだ
よ。」

Hさん：「よかった。これからも頑張
ります。」



すべての子供は、「分りたい。」「できるようになりたい。」と思っています。子供のこのような願いをかなえるためには、習熟度別授業の中で個に応じた指導を展開することが大切です。

一人一人に応じた指導をし、分かる喜びをもたせる

個に応じた指導には、小さな段階に区切った（スモールステップ）課題を出す、個別指導の時間を意図的にとるなどの取り組みがあります。その中で、子供に「分かった。」「できた。」という成功体験を味わわせ、分かる喜びをもたせるようにすることが大切です。

子供たちが喜んで学べるコース設定を工夫する

子供が習熟度別授業の中で意欲的に活動するためには、子供本人が納得して自分の意思で学習グループを決めることが大切です。

- ① 子供が主体的にコース選択できるようにする。
- ② コース間の移動が柔軟にできるようにする。
- ③ 子供がやる気をもつような、グループの名前を工夫する。

子供や保護者に十分な説明を行う

子供はもちろん、保護者も安心して子供の学習を支援できるように十分な説明を行い、そのための資料を作成することが大切です。

- ① 事前に、習熟度別授業を行う趣旨やコースごとの学習内容、方法について十分な説明を行い、説明責任を果たせる資料を作成する。
- ② スモールステップの指導で区切りごとに評価し、できるようになったことが本人に自覚できるようにする。また、単元の終了時には、保護者へもその変容を具体的に伝える。